

災害防止研究所 第4会議 (20181106 1600~1830) 議事録

○ 参加者 (17名)

吉田明生 名取禎 佐藤慶太 佐々木宏 大西清 里雅之 中野晴生 宮岡隆 山田裕介 江口亮 尾又ゆかり 吉田卓生 杉山さとし (本橋洋一)
山口剛 (制作スタッフ二名竹本俊治 星子卓也)

○ 議 事

1 議題等 (吉田)

(1) 第3回会議以降の動き等

ア 認証用ロゴ及び英文表記 (Disaster Prevention Research Institute) 確定

イ 理事及び事務局の加入及び変更

(ア) 理 事：里さん、柴原さん加入

(イ) 事務局：根本さん加入

ウ 10・27留学生イベント「外国人留学生向け書道ワークショップ」実施報告

(ア) 全 般 (山田)

(イ) 防災関連 (吉田)

エ 尾又さん関連調整状況

企業 (内田洋行) へのアプローチ

(2) 議 題

ア ウェブ・制作物確認 (山口・スタッフ)

(ア) 名 刺：表面には認証マーク付き、裏面は「まあるい日本プロジェクト」



(イ) ウェブサイト (山口・スタッフ)

a 内容紹介

「お知らせ」欄にメディアでの紹介、オピニオン等を掲載

「研究項目」欄に、一般向けのコラム的な記事を掲載したい (吉田)

プロトタイプができ次第皆さんに送付し意見を聴取

- b 質問
 - トップページの案は何種類かあるのか（佐藤）
 - 自然をテーマとしたものを中野さんをお願いしている（吉田）
 - 今回は早期の完成を目指し、完成・公開後に動画導入等検討（吉田）
- (ウ) プレゼンテーション
 - a 「強くなろうニッポン」は佐藤さん作
 - b 表紙は中野さんの写真へ差し替え
- (エ) その他（吉田）
 - a チラシはプレゼン制作の後に制作
 - b 企業等への説明の際にプレゼンまたはチラシを使用してもらいたい。
 - c 「まあいい日本」（本）も持参できるよう配布する。
（東京の方はウッドオフィスに置いておくので使用可）
 - d これまで山口さんがウェブの内容を丁寧に調整し、作成してくれているので、次回会合で、完成版を提示できるよう進めてもらいたい。

イ 佐藤慶太さん企画（佐藤）

- (7) 出版関係
 - ワールドフォトプレス社：土居さんへの提案
 - 企画書が社内で概ね稟議を終了
 - 今後、災防研の対応（どのようにかかわるか）検討が必要
- (イ) 「強くなろうニッポン！キャンペーン」のイメージ具体化のための資料
 - 一例として飲料ローリングストックの資料説明
 - それぞれの中身は得意分野ごとに制作をお願いしたい
 - 業種ごとのパンフを制作しておきトータルで説明をするイメージ
 - まずは製品を「製造する側」へ、その後「販売する側」へと普及
 - (佐々木) ドラッグストアが乗りやすく、販売促進のツールになりうる
 - (里) 先ずはローリングストックというコンセプトを企業に売り込むこと
 - (大西) コンセプトの企業提案は、まさに広告代理店が行う仕事では
 - (吉田) 災防研としてどこまでやったら良いのだろうか
 - (佐藤) コンセプトを提案（提供）して認証を与え、具体化は各企業
 - (佐々木) モノマガジンとのコラボで認証制度を設定する方法もある
 - (吉田) 何をどのように認証する制度を作るかは要検討。認証制度の定型はないようで、例えば「国土強靱化計画」でも答えはない。役所は民間団体の良いものを後押しするような動きで、国が業者などを認証しているのではない。
 - (佐藤) 認証については、災防研として法的な裏付けが必要となるような耐久性や安全性にかかわる事項は難しく、工夫が必要
 - (吉田) 何を認証するのか考え方の大枠を私が担当して詰める。
この提案の今後の進め方は
 - (佐藤) 先回提案した「飲料、食糧、危機回避、ストッカー、情報、衣料」の6項目を考えており、項目毎に資料作成が必要。6項目全部の提

案書を作って全体像を示しながら、一つ一つの企業に提案する。どこか代表的な大企業が提案に乗れば、他企業に波及する。

- (吉田) ローリングストックの定まった考え方等があるのだろうか
- (江口) 国会図書館で調べれば文献等が解る
- (吉田) 江口さん担当で文献等の資料の調査を
- (吉田) キャンペーン開始の時期は
- (佐藤) 2020年までには開始したい
- (佐藤) 例えば、消費・賞味期限の数字は現在は細かい文字で書かれているが、ローリングストックの製品とした場合は消費・賞味期限の数字ロゴを制作し商品の前面に大きく打ち出す方法ある
- (宮岡) 「まあるい日本」の本の理論と災害の現場を経験した実践を合わせた情報提供ができるのが防災研の強みではないか

ウ 杉山さん企画（杉山・本橋）

「被災時に活躍する人材育成事業 海から学ぶ災害防止セミナー」を説明
アウトドアの活動は災害発生時の状況そのもの

- (吉田) 防災を前面に打ち出し、他とどのように連携するかの検討が必要
- (中野) 講習料金が10万円だが対象者は
- (杉山) 企業の社員研修に参加する社員を想定
- (大西) 終了時に何らかの認定証等が必要では
- (佐藤) 自然環境リテラシーの語の使用許可は必要か
- (本橋) 講座を持っている三重大の教授に話を通す必要あり
- (本橋) 他のカヤック体験では、キャンプ場等で防災に関連した類似のセミナーを行っている。それらの場所は概ね車両で乗り付け、インフラも使用可能な立地となっているが、当企画は全くインフラのない場所での実施となる。
- (吉田) 事業主体、実施要領、管理の他、講習参加者の技能の認証、企業への付加価値をどのようにつけるかなどの検討を具体化して欲しい。

エ 里さん企画（里）

「防災の日 イベント企画」を説明

阪急百貨店はこの企画に興味を示しているが、佐藤さんの提案のように、研究所が考えている基盤となるものを本（バイブル）として制作しておけば後の企業等への説明は容易になる。

- (佐藤) ゲームの制作には、その作成途上の検証で相当の資金が必要
- (吉田) 時期的、内容的に、佐藤さんの企画との連携は
 - (里) 当企画の実施が19年の9月なのでそれ以前（19年8月以前）に開始されていることになる。理事長が「ローリングストック」をテーマに講演し、備蓄食糧などを展示・販売することで内容的にもリンクする。
- (宮岡) キャンペーンに合わせてイベントが行われるのは良い。
- (山田) キャンペーンを行うには当会のコンテンツが必要
先にキャッシュが確定するのは少し怖い。

(里) 先に協賛金を収集しておくのを追求すべき

(吉田) この企画は、当面、里さんの、収支の見積についての経験と感覚を活かしながら進めてもらいたい。

オ その他

(吉田) モノマガジンの基幹本作成の話は、どの様に関わるかを直接お会いして話をお聞きしたい。

(佐藤) 会合を調整する。その際、実体験をしている佐々木さん、森島さん、大西さんも同行が必要では。

(宮岡) 理論、ハウツー、実体験がそろっていたほうが良い

2 次回の会合

11月27日(火) 16時～ 於：ウッドオフィス5F会議室ス 5階会議室

以上